

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

「地域の皆様、いつもありがとうございます」

日頃より町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。本年度も、多くの地域の皆様方に、温かいご支援・ご協力をいただき、子どもたちの元気な声と笑顔が見られるように、学校と家庭・地域の連携を強めながら、健全育成を図ってまいりました。

学期中は、暑い日も寒い日も各地域で、子どもたちの登下校に合わせて実施している防犯・安全活動につきまして、「子ども安全パトロール員」の方々の積極的な見守りや声かけにより、子どもたちの安全確保に向けた、ご支援・ご協力をいただいております。

4年目を迎えました「さとしょう未来塾」では、地域の方々をはじめ、老人クラブなどの各種団体、町内企業の方々に講師やボランティアとして参加していただき、子どもたちの支援をしていただいております。子どもたちは自学自習やものづくり、様々な体験活動を通じて、地域の方々との連携や、地元地域の良さの理解を深めることができましたと考えております。

さて、来年度は、小学校学習指導要領の本格実施を迎え、外国語科やプログラミング教育等、新しい学習内容がスタートします。情報化、グローバル化の進展や人工知能の進化等の急激な社会的変化に対応できるように、子どもたちに必要とされる資質・能力を育むことが求められます。そのためには、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有することが大切になります。

これからも、子どもたちの元気な声と笑顔が見られるよう、学校・家庭・地域との連携を深めていきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(文責：事務局長 小寺 大輔)

第52回里庄町立志式 「強い責任と誇りをもつ決意」

里庄町では、自分の人生を考える機会として、里庄中学校2年生を対象に、立志式を開催しています。毎年2月に実施しており、今年度は84名の生徒が参加しました。

記念式典では、加藤町長から「周囲の人に流されない強い心を持ち続けてほしい」と式辞があり、杉本教育長から記念品の画材セットが贈られました。生徒代表の近藤もも華さんの発声で「強い責任と誇りをもって立派な大人になります」と全員で宣誓しました。



立志の誓いを述べる様子

式典後は里庄中学校の卒業生である、おのはなこ商店代表クリエイターの小野華子さんから「夢を持ってワクワクする生き方を～失敗を恐れずチャレンジすることの大切さ～」と題して記念講演があり、挑戦することの大切さを生徒に伝えました。

(文責：吉川 大和)

「さとしょう未来塾」について

「さとしょう未来塾」は、里庄の子どもたちの健やかな成長を願い、「生きる力」を育む事業です。この事業には2つの柱があります。

○「里ちゃん寺子屋」

毎週1回土曜日に、公民館で自学自習をしています。今年度は、小学校4年生から中学校2年生まで、合わせて16名が学習しています。

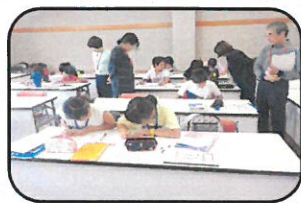
さらに、新しい取り組みとして「特番・里ちゃん寺子屋」として、中学校の定期考査期間中に自習スペースを設けたところ、2学期末までに、のべ27名の参加があり、子どもたちが進んで学習に取り組みました。

○「里ちゃんチャレンジ・ワールド」体験活動

今年度も楽しい事業を実施しました。学年や学区を越えて、一緒に活動して成し遂げる喜びを味わったり、新しい発見に触れたりして、心を揺さぶられる体験をしました。また、里庄町の良さを再発見し、その素晴らしさに気づき、ふるさとを愛おしく思う心も培いました。

来年度は、ふるさとを楽しむ活動を引き続き開催しながら、福祉をテーマにした内容も実施予定です。ふるってご参加ください。

(文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治)



里ちゃん寺子屋



冒険キャンプ



歴史探検大原焼



マコモのしめなわ作り

令和2年成人式 ～新成人の輝かしい未来を祈って～



成人式で謝辞を述べる様子

里庄町では、これからの里庄町を担う新成人が晴れて成人の日を迎えられたことを祝い、また、成人としての責任や義務を自覚する機会となるよう、毎年成人式を開催しています。

今年は1月12日(日)に実施し、81名の新成人が参加しました。

式典では、新成人代表者が「ここに集まった仲間たちと、令和最初の成人として、より良い時代を築いていくことを誓います」と決意を述べました。

式典終了後に行われた交歓会では、旧友との再会に加え、小・中学生当時の先生方をお招きし、これまでのことや、これからのことなど、かつての関係性はそのままに、話に花を咲かせていました。また、新成人が中学3年生の時に作成した映像を放映した際は、懐かしい顔や出来事に、歓声や笑い声が上がっていました。

教育委員会では、新成人の皆様のご健勝と、一層のご活躍をお祈り申し上げます。

(文責：山下 直人)



交歓会でのDVD放映会

～スマートフォン・ゲームの適切な利用について～

里庄町教育委員会では、町、学校、PTAと連携して、子どもがネット上のいじめや犯罪に巻き込まれないようにするために、町全体でスマートフォンやゲームの使用についてのルールづくりを推進しています。

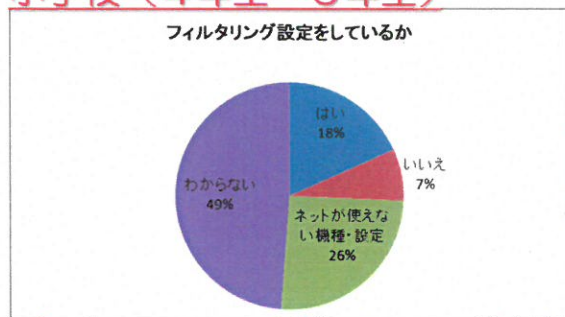
里庄町の統一ルールとしては、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。特に進級や進学する時に、スマートフォンやゲームを持ち始めることも多いと聞いています。ゲームに動画、SNSなど、スマートフォンは子どもにとって魅力がいっぱいです。使い始めると自分でコントロールすることが難しくなります。手遅れになる前に、ルールを守れる環境をつくった上で、使うことが大切になります。お子様が持ち始める時に、親子でしっかりと話し合い、ペアレンタルコントロール（利用時間制限、アプリの制限等）を活用して、親子でしっかりと話し合ってルールづくりを進め、安全・安心に日々が送れますように、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。（教育長 杉本 秀樹）

里庄町の子どもの様子（スマートフォン・ゲームの実態調査より）

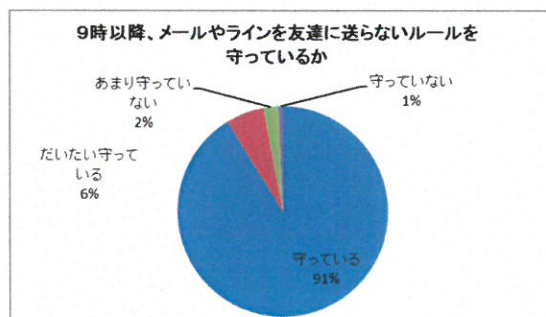
里庄町教育委員会では、令和元年度に2回、町内小学校4年生から中学校3年生までの児童、生徒にスマートフォン・ゲームの使い方について実態調査を行いました。令和2年1月の結果の中から、2つを紹介します。

子どもを守るのは、社会の大人全体の責任です。子どもの一番身近にいる大人として、まずは、家庭内のルール作りについて取り組みましょう。特に中学生になると、9時以降のルールが守りにくくなる傾向があるようです。**ご家庭で、お子様としっかり話し合っ、子どもも納得するルール作りを進めてください。**（文責：天野 正彦）

小学校（4年生～6年生）

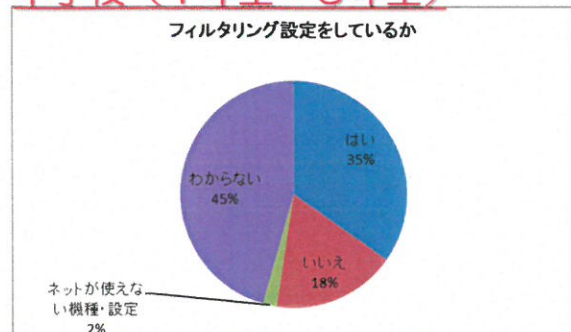


フィルタリング設定をしている子どもが約2割

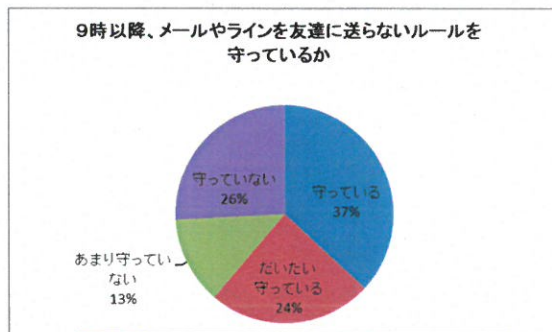


守っている子どもが約9割

中学校（1年生～3年生）



フィルタリング設定をしている子どもが約3割5分



守っている子どもが約6割

里庄町の指定文化財

浜中南分館が所有している「ひらいゆうせんほうきょういんとう平井裕仙宝篋印塔」を「かいげつあん ほうきょういんとう浜中海月庵の宝篋印塔」として、里庄町指定文化財に認定しました。

享保2年（1717年）に造られた浜中海月庵の宝篋印塔は、当時海だった浜中地域に、干拓により23ヘクタールもの新田を開拓し、里庄町の発展に大いに寄与した平井裕仙とその一族の供養塔です。

岡山県下で文化財として指定された他の宝篋印塔と比べると決して古い時代のものではないですが、精巧で規模が大きいうえ、安定性に優れた石積工法で造られていることから、里庄町の文化財として認定となりました。

また、仁科芳雄博士の生家の案内看板の更新とカゴノキへの誘導看板を作成・設置しました。誘導看板とは、カゴノキ（町指定文化財）周辺に駐車スペースが無く、東公民館駐車場を利用するため駐車場からカゴノキまでの案内のための看板です。カゴノキは本村地区の天満神社飛地に自生している、推定樹齢340年、樹高約12メートル、根回り約6.3メートルのクスノキ科の常緑高木で、天満神社のおたびしょ御旅所となっています。

里庄町の指定文化財はこの他にも、大原焼彩色狛犬（八幡神社）、絵馬伊勢参詣図（高岡神社）、大原踊りがあります。

（文責：清水 智香子）



浜中海月庵の宝篋印塔

里庄中学校 地域清掃ボランティア



ゴミがないかくまなくチェック！

里庄中学校1、2年生によるボランティアは、自主的な校外美化活動を通じて、ボランティア精神の大切さを学ぶ機会とするために、平成29年度から中学校と教育委員会の共催で実施しており、今年度で3年目となります。今年度は2月14日に実施しました。日頃お世話になっている地域に貢献するため、1、2年生の65%以上の生徒が参加して、体力づくりふれあいマラソン大会のコース周辺を中心に清掃活動を行いました。生徒達は競うように、普段目に付きにくい側溝の中のゴミ、法面に引っかかっているゴミなど、自ら考え、動き、回収活動を行っていました。

を行っていました。

ボランティア実施中は、集中してゴミを探す中学生に留意し、スピードを落として、笑顔で挨拶をしてくださるドライバーの方や、頑張る中学生にお礼を伝えてくださる方がいらっしゃいました。このように地域に愛され、必要とされていることを知る経験は、子どもたちにとって大きな自信に繋がる良い機会となります。今後も、子どもたちが地域で輝くことのできるような機会作りを積極的に実施していきますので、御協力よろしくお願ひします。

（文責：山下 直人）



分別までが奉仕作業